

## アワーミュージアム

第36号 2008年2月29日発行



## サンバは2月の風に乗って

鈴木 彩永 (友の会会員)

8年前、父のブラジル転勤に伴い、私たち家族もリオ・デ・ジャネイロで3年間生活することになりました。そのなかで一番印象に残っているのは、リオのサンバとカーニバルです。2月、ブラジルはちょうど今がカーニバルの季節（夏）です。日本では知られているようでも、実際にはあまり知られていないサンバとカーニバルについて紹介したいと思い、書きました。

## 1. 音楽からみたブラジルのエッセンス

ブラジル人にとって音楽は生活の一部です。どこへ行っても歌があり、踊りがあります。豊かな音楽性のなかでもリオのカーニバルが示すように、代表格はやっぱり「サンバ」です。サンバというのは主にリズムの種類を指し、その成り立ちは諸説あって一筋縄にはいきませんが、ルーツを辿ると、特に影響を与えたのがアフリカからの黒人奴隷がもたらしたリズムだと言われています。

アフリカの伝統音楽・土着芸能は、ヨーロッパ、原住民インディオ、カトリックの文化と融合し、今日の素晴らしいブラジル音楽を生み出しました。な

かでも、500年間姿を変えつつも人々の血を沸かせ続けたサンバは、ブラジルのエッセンスを世界に広めたりズムのひとつです。

## 2. カーニバルってもともと何だ？

カーニバル＝謝肉祭はもともとキリスト教における祝祭です。キリスト復活記念のために、春分後の満月直後の日曜日に行う復活祭前の齋戒（飲食・行動を謹んで心身を清める）期、すなわちキリストの40日間の断食修行を記念した四旬節に先だて行われるのが「カーニバル」です。でも、今やブラジルではパレードそのもの、またはパレードが行われる期間を指すようになってしまいました。カーニバルの日は宗教的ルールに則って毎年移動します。総出演者5万人、間違いなくカーニバルは世界最大のショーです。

## 3. 爆音サンバを打ち鳴らすパテリア（打楽器隊）

踊りに衣装に肉体美・・・行列の中には花形がたくさんありますが、打楽器隊がいなくてはサンバは始まりません。パテリアはサンバの心臓部です。1チーム4,000人前後に及ぶ行列構成員ばかりでなく、サンボドロモ（カーニバル会場）全体を気持ちよく躍らさなければならないのです。凄まじい爆音を出さなければならないうえに、一糸乱れぬ演奏が要求されます。そういう意味で打楽器隊は、サンバのカリスマ



マンゲイラのアレゴリア（テーマはファラオ）



アレゴリアの上で踊る踊り子

的軍団です。太鼓も叩けばサンバになるわけではなく、9種の打楽器の構成もあり、それなりの才能と特訓がチーム（エスコラ）を支えています。

#### 4. 採点方法

リオ・デ・ジャネイロには100以上のサンバチームがあるといわれています。アメリカの大リーグのようにメジャー（E-special）、マイナー（A・B・C・・・）のそれぞれのカーニバル協会に別れて、協会ごとにその年のNo. 1を懸けて覇を競っています。最高峰はE-specialに所属する14チームです。（私と妹も、この中の1つである「サルゲイロ」のちびっ子チームに入団してカーニバルに出場しました。）

2日間にわたってパレードをし、得点を競うコンクール形式で行っていますが、採点により下位の2チームは次年度マイナーAに落ち、替わってAの上位2チームがE-specialに昇格するという方式を採っています。だから各チームとも栄誉とスポンサーを懸けて必死なのです。

採点方法は、10種のカテゴリーに5人ずつの審査員がいて、それぞれが5点～10点満点の点数をつけ、その合計点で順位を競います。採点の対象になるカテゴリーは次のとおりです。

- ① テーマ曲の歌詞や編曲
- ② テーマ曲の仕上がり具合
- ③ 打楽器隊
- ④ テーマに添ったハーモニー
- ⑤ テーマに添った全体の盛り上がり
- ⑥ テーマに添った全体のバランス
- ⑦ テーマに添った全体の衣装
- ⑧ テーマに添った山車の仕上がり具合
- ⑨ 先頭隊列の仕上がり具合
- ⑩ チームの旗を持つ男女の組踊り



マンゲイラのコミソン

#### 5. これやったら減点！

カーニバルは「何でもあり」ではありません。厳格なルールがあります。ルールを破れば減点され順位に影響するので、チーム一丸となってルールを守っています。減点対象となる主な項目は次のとおりです。

- ① 200人以下のバテリア（打楽器隊）
- ② バテリアに管楽器を入れる
- ③ 70人以下のバイアーナ（大きなスカートを身につけ、クルクル回転して踊るお母さん軍団）
- ④ バイアーナに男が参加
- ⑤ 生きている動物の参加
- ⑥ 5台以下、8台以上のアレゴリア（山車）
- ⑦ 10人以下、15人以上のコミソン（一番に登場してチームをエスコートする美男・美女軍団）
- ⑧ 全裸（大減点）
- ⑨ アレゴリアや衣装にスポンサーが大々的に広告を出す
- ⑩ 審査員に賄賂を渡す
- ⑪ 先頭構成員の入場～最終構成員の退場まで80分以上かかる（カーニバル会場は750m）

ちなみに、1台15～30万ドルもする大きくて重たい山車はチームで平均6台製作されており、手押しが原則で、20～30人のTシャツ軍団が80分間押し続けています。こういう涙ぐましい努力でチームを支えている人たちもいるのです。縁の下の力持ちとなる人がいて、初めてカーニバルは豪華絢爛に進行することができるのです。

リオの丘からはブラジルが美しく見える

カーニバル自身の絢爛さもさることながら、各チームが歌うテーマ曲の「ブラジル」は、自然の豊かさと進歩的で自由に溢れ、智恵と勇気のある国民たちの喜びでいっぱいのように感じます。ブラジル人にとって、カーニバルの中の世界は、ユートピアなのかも知れません。チームひとつのパレードには100万から200万ドルという莫大な資金がかかっているとされます。でも、この祭りの実際の担い手たちは、決して裕福な階層の人々ではないのです。なのに、この豪華さと明るさは一体何なのでしょう？ どうしてこれだけ自分の国が誇りに思えるのでしょうか？

サンバ、そしてカーニバルには、ブラジルの不思議がたくさん詰まっているように思います。

## 友の会行事報告

くさ むし  
草で虫をつくろう

- ◎日時 9月16日(日) 13:00~15:00  
 ◎場所 博物館 3階実習室  
 ◎日程 12:45 受付 作品の見学  
 13:00 講師紹介 講師挨拶と進行の説明  
 13:10 製作開始  
 14:50 製作終了 後片付け  
 15:00 解散  
 ◎担当者 南部 洋子(友の会役員)  
 ◎講師 吉見 幹子  
 ◎参加者 17名  
 ◎概要

ススキの葉の上にとまった緑色のバッタ。じっと目をこらす。そっと近づく。でも、動かない。さらによくよく見ると、それは葉っぱで作られたバッタだった。

初めて目にした時の感動。本物そっくり！「よくできているなあ。誰が作ったんだろう？私も作ってみたい！」「会員さんの中にも興味を持たれる方がいらっしゃるのでは？」ということで、今回、吉見幹子さんに講師になっていただき、会員の皆さんとご一緒に、鮮やかな手法によるバッタづくりを伝授していただきました。(南部 洋子)

## 参加者の声

## ◎伊勢 ひとみ(友の会会員)

「草で虫をつくろう」で、楽しいひとときを過ごさせていただきました。身近にあるススキの葉で、あのような本物そっくりの虫ができるなんて感動しました。早速、地元の年配の方々との茶話会などで披露できればと思っています。次回は孫を誘って参加したいと思います。

## ◎大杉 いずみ(友の会会員)

最初は、「果たして自分にできるかな・・・」と不



会員製作のオンブバッタ

安でした。悪戦苦闘の末、ようやく一匹のバッタができました！ ススキの葉で、こんな素敵なものができるとは知りませんでした。また、バッタとは別に教えていただいた葉飛ばしにも、子どもたちは夢中になっていました。

## ◎大杉 天斗(友の会会員)

ほくは、バッタをうまく作れなかったけど、見本を見た時には、「これ、本物？」と思うくらいびっくりしました。やっぱりすごかったです。また、きかいがあれば作りたいです。

## ◎佐竹 敬子(友の会会員)

大変楽しかったです。以前から興味があり、してみたかったのですが、周りも知らない人たちばかりだし、自分も調べようとはしなくて、十一年が経ち・・・今回、草で虫が作れて、とても嬉しかったです。

周りを見ると、ススキは土手(吉野川)にいっぱいあるのに、「こういうことも知らなかったんだなあ。」と、いかに自分が何も知らず、何も見ずにいたかを改めて知らされました。早速、ススキを採ってきて、家で復習しました。オンブバッタも作りました。小学生の息子にも学校に持って行かせました。大好評だったようです。

## ◎中野 勝文・滋美(友の会会員)

楽しい企画でした。童心に返って、無我夢中で2時間を過ごさせていただきました。教えていただいた作品と我流の作品とでは雲泥の差があり、「やっぱり来て良かった！」と夫婦で話し合った次第です。これで孫たちに自信を持って教えてやることができ、一緒に遊べます。



できた作品を手に

友の会行事報告

なんよいつぱくけんしゅう たび  
南予一泊研修の旅

◎日時 9月29日(土)～9月30日(日)

◎場所

愛媛県内子町:国指定重要伝統的建造物群保存地区  
内子座・商いと暮らし博物館・上芳我邸

同 大洲市:大洲城・臥龍山荘

同 西予市:開明学校・民具館・先哲記念館・米博物館

愛媛県歴史文化博物館

同 宇和島市:和霊神社・宇和島城・伊達博物館

◎担当者 多田 精介(友の会役員)

◎参加者 36名

◎概要

全国有数の木蠟の産地として栄え、古い町並みが残る内子町をはじめ、伊予の小京都と言われる水郷・大洲市や文明開化の香りを今に残す西予市(宇和町)、伊達十萬石の城下町として栄えた宇和島市など、旧大洲街道・宇和島街道に沿って独自の歴史と文化を育み、貴重な歴史的文化遺産を今に伝える南予地方を舞台に、本年度の一泊研修の旅を実施した。

(多田 精介)

参加者の声

○松家 京子(友の会会員)

〈秋日和〉

今年はいつまでも残暑が厳しく、9月末だというのに冷房がないと暮らせない日々が続いていたので、一泊研修も暑くて大変だろうと覚悟していました。しかし、ちょうど一泊研修の頃は、偶然にも気温が低めで、過ごしやすい旅日和となりました。「旅先でなんとか俳句ができたらいいな。」と参加させてもらったので、旅の感想を下手な俳句で振り返ってみることにしました。



臥龍山荘のお茶室

9月29日(土)

◎内子座 商いと暮らし博物館 上芳我邸にて

・秋冷の ところが奈落の すっぽんか

・秋愁や 箱階段の 軋む音

・秋日さす 和蠟燭屋の ポンプ井戸

・活けられて 薄の傾ぐ なまこ壁

・秋高し 上芳我邸の 鳥ぶすま

・邸宅の 古木にあまた 柘榴の実

◎大洲城にて

・秋爽や 登りきったる 天守閣

・願に 川風さやか 火灯窓

・秋興は 大洲天守の 心柱

・秋冷の 木組み匂ふや 大洲城

◎和霊神社にて

・蛸や 風渡りくる 大鳥居

9月30日(日)

◎宇和島城にて

・武家門を 入らば城山 臭木の実

・露けさの きざはし続く 城の道

・城垣の 高所にしかと 螢草

◎伊達博物館にて

・盥にも 蒔絵の綺羅羅 ふと秋思

・掛軸の 千疋蝶図 見入る秋

◎開明学校 米博物館にて

・教科書の 文字はカタカナ 秋の紙魚

・教室の 単語図木椅子 九月尽

・赤米と 黒米貰ふ 伊予の秋

・こすもすや 十室並ぶ 長廊下

◎松屋旅館にて

・膳先に 栗の白和へ 旅の昼

・漬物の 蕪蓄暫し 秋扇

・水引草 水琴窟の あるところ

◎愛媛県歴史文化博物館にて

・牛鬼の 形の様々 見たる秋

・垣間見る 秋の句会に 宇多喜代子

◎臥龍山荘にて

・苔庭の 白の飛び石 秋ふかむ

・茶室へと 続く飛び石 うすもみぢ

・肱川を 見下ろす茶室 実南天

楽しい二日間でした。一日目の昼食は、何か一品忘れていないかと思って、みんなで顔を見

合わせたのですが、ご飯が美味しく、結局はちょうど満腹になりました。「ひゅうがめし」なるものを初めていただき、食事の面でも大満足です。それから、予定にはなかった臥龍山荘にも立ち寄ってくださり、ありがとうございます。肱川に半分迫り出したお茶室でお薄をいただき、風流な気分を味わいました。お茶室からの景色も忘れられません。

○坂東 直道（友の会会員）

例年のことではあるが、乗車前に資料をいただいた瞬間、今回も密度の濃い充実した研修旅行になると予感した。これまでに88ヶ寺を3回廻り、宇和島・大洲にも何度か立ち寄っている。しかし、昨年、四国観光検定テキストを勉強する過程で、知らないことの多いことに気付かされた。今回、事前の旅程案内を見て、内子座・内子の町並み・上芳我邸・開明学校・愛媛県歴史文化博物館・臥龍山荘・天赦園等を見学し、宇和島の鯛めし（ひゅうがめし）を食べ、今治との違いを確認できれば最高だと思っていた。

まず、最初に内子座を見た。金毘羅歌舞伎の構造とほぼ同じであると思った。奈落を見るのは初めてで、大正年間の建造というが、よく保存されていると思った。内子の町並みは、脇町の卯建の町並みに似ているが、スケールが大きくて活気があると思った。「人体に害をなす櫃から、どのようにしてロウを採るのだろう？」と、長年疑問に思っていたが、上芳我邸で解明できた。高橋邸と開明学校、そして、広大なスペースに各種資料を展示した愛媛県歴史文化博物館は、もっとじっくり観覧したかった。伊達博物館は以前に見ていたので短時間で流し見て、隣接する天赦園に立ち寄らせてもらった。天赦園は七代藩主・伊達宗紀が隠居所として造成された庭園で、回遊式池泉庭園は豪壮そのものだった。集団行動が義務づけられているのに、自分勝手な個人行動をとったことを申し訳なく思っている。しかし、近くまで行って見ないで帰ったら、いっそう悔いが残るのでないかとも思った。宿舎でトロン温泉に入浴した。「規則通りに入浴すれば若返る」という効能書きであった。規則通り入浴したので、寿命が一日くらい延びるのではないかと思った。松屋旅館での「ひゅうがめし」も美味だった。

今回の研修旅行は、『百聞は一見に如かず』とい

う諺どおりだった。「見てよし、食べてよし、浴びてよし」の三拍子揃った、実りの多いものだった。

○川上 左恵子（友の会会員）

南予一泊研修の旅に参加し、有意義な二日間を過ごすことができました。このようになされるまでには、文献を取り寄せたり、下見や聞き合わせなど、いろいろとお骨折りがされたことと存じます。行く先々でご配慮の行き届いたお世話をしてくださって、たいへん気疲れなさったのではないのでしょうか。

私は南予は初めてだったので、見るもの、聞くものすべてが真新しく、持って帰ってきたパンフレットの余りの多さに、「これ、みんな見学してきたのか！」と今更のように驚いています。これからも体の許す限り参加させていただきたく思っています。

○祖川 恵美（友の会会員）

初めての一泊研修、楽しかったです。臥龍山荘が見学できて良かったです。「この茶屋で観月の会をすれば最高だろう。」と思いながら風景を眺めていました。和霊神社→大麻彦（比古）神社、私たちは“明神さん”と呼んでいます。宮司さんに話を聞きたいと思っています。

○本田 壮一（友の会会員）

宇和島市周辺は、丁度、四国内では徳島市と反対側になり、最も遠い場所です。しかし、JR四国の乗り放題の切符などがあり、宇和島・大洲・卯之町・内子などは、JR駅前周辺を歩いたことがありました。特に大洲は、3年前に家族旅行で宿泊した場所で、ビニール・シートに覆われた城郭を覚えています。再訪の場所ですが、大人の社会科見学と考え、小学5年の息子と参加しました。仕事上の知人、知人の伯母さんもおられ、奇遇でした。

内子の和ろうそくで栄えた家や町並み、改築なっ



昔をしのばせる開明学校の教室

た大洲城、宇和島市の大きな神社と宇和島城、卯之町の大きな博物館、大洲の山荘（これは2回目）など、解説を楽しみながら見学できました。内子のウダツなどを貞光の町並みと比べると面白いと教えられ、また楽しみができました。宿舎から見える夜景がきれいで、昼食も夕食もおいしかったです。また、息子が各地でスタンプを押すのを楽しみにしているのを見て、私も同様に記念メダルやペナントなどを集めていたのを思い出しました。

今年の夏は猛暑で、やっと一段落した週末の旅行を楽しむことができました。

#### ○森 マスミ（友の会会員）

古いものにこそ価値があり、それを伝承させていくことの大切さを実感させられた旅でした。江戸時代に行われていた手仕事で、もはや絶えてしまって、幻となった技術が数多くあると聞きます。そのような技術を絶えさせない体制が必要だと思います。

この前テレビで、チベットに進出して観光事業をしている中国人が、チベット仏教の仏具や仏像、チベット人の古道具などを買い叩いていました。それを買う一番のお客は日本人だそうです。時代と場所を違えて同じことが行われています。

#### ○若田 治良（友の会会員）

いつもながら参加意欲を掻き立てられるような企画で、説明文も詳細にわたり、感服しています。今回の南予一泊研修で、これだけの企画をするのはたいへんなことであったと思います。

内子・大洲・宇和島・宇和と、それぞれ特色のある町を見て、勉強になりました。松屋旅館では政治家、文人、墨客、俳人等、多岐にわたる宿泊交友関係が印象的でした。



宇和島市 和霊神社前にて

## 友の会行事報告

### はちまんちよう むかし さぐ 八万町の昔を探ろう

#### だい かい かきたに ふくまんだに しんこう みち たど 第4回 柿谷・福万谷―信仰の道を迎える―

◎日 時 11月18日(日) 8:50~12:30

◎場 所 徳島市八万町柿谷～福万谷

◎日 程 8:50 文化の森総合公園噴水前集合  
9:00 出発

- ①柿谷の山ノ神さん-②柿谷地神社-③峠の地蔵さん  
④清涼寺-⑤福万谷地神社・山ノ神さん  
⑥黒岩神社入口付近(一王子神社・庚申さん)  
⑦慈眼庵

12:30 文化の森総合公園噴水前解散

◎担当者 関 眞由子 大杉 洋子 南部 洋子(友の会役員)

◎参加者 27名

◎概 要

「八万町の昔を探ろう」シリーズの第4回目となる今回、参加者は上記のコースに沿って、由緒ある寺社や路傍に建つ地神塔、お地蔵様などに、先人の祈りや信仰心の篤さなどを感じながら、遙かな古に思いを巡らせ、信仰の道を通った。(関 眞由子)

#### 参加者の声

##### ○日下 静代（友の会会員）

柿谷から福万谷は進めば進めほど谷が深く、信仰の跡を目にすることができました。時折、時雨れることも山の神、地の神のささやきのようで、ロマンを感じるほどでした。ご説明くださる方々の工夫とご努力で意義ある一日となりました。

##### ○浜田 克子（友の会会員）

とても有意義な一日でした。今年の春の入会なので、何も分からないのですが、案内して下さった方はボランティアなのでしょうか？

会員さんでこれだけの資料をつくり、実際に歩いて、しっかり案内する内容を把握しておられたことに頭が下がる思いです。実家の瓦の紋様も教えていただき、ありがとうございました。

切支丹灯籠のこと、私は瑞巖寺を県外の観光客にガイドしておりますが、二基あることを知りませんでした。それに、「茶道の普及に伴い、庭園に相応しい形の一つで、古田織部の考案したものを切支丹灯籠と呼んでいる」と書かれている下福万の瑜伽さんの所で、実際に灯籠を見て実感しました。

##### ○久保 又一（友の会会員）

八万町に住みながら、素通りしているのが恥ずかしい。柿谷と福万谷の間に「樵谷」という名前があり、

かつての古戦場であった所や山口家の祠の事勝祠の説明が印象的だった。

○住友 セツ子（友の会会員）

急冷えとなった朝、集合場所には皆様もうお見えになられ、熱心な方たちばかりの中、歴史に弱い自分が勇み立っている姿に自照するばかりです。いつもながらの丁寧な資料を手渡され、ご一緒できる幸せ。真新しい場所にページを捲り、一生懸命に頷くばかりです。竹林の奥の祠へと行く道筋、大きなドングリの実に子供心をくすぐられました。

・竹林の 落葉掻き分け 山の神

冬の日差しに地元の方と語りもして、長閑な山あいの里を街筋へと出ると慈眼庵です。よく前は素通りしていましたが、立派な菩薩様、由緒ある場所と改めて感じ入りました。

・説明を 聞きをり椎の 実を肩に

○島 美代子（友の会会員）

文化の森からこんなに近くに古戦場があったとは知りませんでした。住宅地を縫うように歩きながら、和やかに散策できました。柿谷の六地藏から山ノ神、水神さん、峠の地藏さん・・・福万谷の地神社、慈眼庵。歩きました、歩きました。在所ごとに人々の信仰の篤さを垣間見ることができました。テキスト片手に列のしんがりでおぼつかない足取りで藪の中へも入りました。こんな中まで調査された先生方のご苦勞に頭が下がります。テキストも詳しく説明があり、良かったです。悠久の昔へと心を馳せ、信仰の尊さに身が引き締まりました。

○高田 スミ子（友の会会員）

いつも詳しい資料の準備、その場での適切な説明と、たいへん勉強させていただきました。また、八万は歴史に富んだ町だと再確認した一日でした。回を重ねて参加しているうちに、会員同士親しみを増し、とても楽しく歩いて嬉しく思いました。



清涼寺裏のお堂前にて

## 友の会行事報告

とりいりゅうぞう  
鳥居龍蔵・モラエス

ちある  
ゆかりの地を歩こう

◎日 時 12月24日（月）13:00～16:20

◎場 所 徳島市東船場町～寺町～伊賀町

◎日 程 13:00 新町橋南詰め広場集合

13:10 フィールドワーク出発

①東船場町-②西新町-③西大工町-④寺町

⑤西山手町-⑥東山手町-⑦伊賀町

16:20 フィールドワーク終了・金比羅下解散

◎担当者 石原 侑（友の会会長）

◎参加者 36名（一般4名含む）

◎概 要

わが国の人類学・民族学・考古学の草分け的存在で世界的に著名な鳥居龍蔵博士と、元ポルトガル神戸総領事で亡き妻ヨネの故郷徳島を愛し、徳島で生涯を終えた文豪モラエス氏のゆかりの地を訪ねるフィールドワークを徳島市内で実施した。

★鳥居龍蔵・モラエスゆかりの地案内の補足

①鳥居家の屋号は「鳥屋」。祖父の新助が弟を分家させたので、本家（とり新）と分家（とり利）になる。「とり」の変体仮名を活字にしたのが「登り」で、誤りが定着した。

②円徳寺の中島藤太郎の碑（坪井正五郎撰、大野雲外書）

③還国寺裏の観音小学校（新町小学校の前身）。現在、浄智寺がある場所にあった。

④大滝山登り口の黄花亜麻。黛まどかが作品で取り上げたので有名になった。

⑤潮音寺のモラエス等の墓。

福本ヨネ 法喜蓮照信女（大正元年8月20日）38歳。

斉藤コハル 艶覚妙照信女（大正5年10月2日）23歳。

モラエス 藻光院局窓文献居士（昭和4年7月1日）

75歳。墓を造った時、戒名はない。

もともとコハルとモラエスは、一つの墓の表裏だった。別の二つの墓にしたことを「心なき技」と表した人がいる。

（時実新子「三つの墓」『図書』534号）

⑥瑞巖寺の山門は、もと国瑞彦神社の神門で、文化5（1808）年の建築。形式は「高麗門」。

⑦光仙寺の鳥居一族の墓。

母親の墓は「瑪利亞 鳥居徳子之墓」。

（石原 侑）

## 参加者の声

○澤 祥二郎（友の会会員）

今年最後の友の会行事「鳥居龍蔵・モラエスゆかりの地を歩こう」は、平年並みの気温が身体に心地良い中（フィールドワークの為か？）、徳島の誇るお二人の足跡を辿りながら、明治・大正・昭和初期の徳島の街のありようや、そこで暮らしていた人々の息遣いまでも彷彿とさせるものでした。過去の人々の墓碑や居宅跡を訪ねる中でイメージーションを膨らませ、今、現在、彼らや彼女らが生き生きと活動

している姿を思い浮かべながら、あたかも自分が同時代の只中で彼らと向かい合っているような気持ちになりました。

鳥居龍蔵やモラエスといった徳島県が誇る人たちのことが徳島県民にさえ十分に伝わっていないこと、また、いろいろな会を立ち上げて活躍なさっている方々のご努力が十分に伝わっていないことが残念でなりません。かく言う私もお二人に関心がありながら、鳥居記念博物館やモラエス記念館に何度か足を運んだものの、その著作や論評に関しては、この行事に参加するようになって県立図書館やら書店で本を探し、初めて目を通すとといった有様でした。けれど、いろいろと読み進めていくうちに、彼らがいかに先見性に富んでいたのか、作品がいかに日本情緒をよく捉え、工夫された文学的表現が施されているのかが分かってきました。本行事は、この巨人たちの足跡を辿ることで、いろいろと見えてくるものがあるのではないかということを知らしめてくれた有意義な行事でした。

私の父（大正9年生まれ）が小学生の頃、モラエスに会ったことがあるとの話を、昔、父から聞いていたこと、また、鳥居一族の墓所の光仙寺が私の母の墓所でもあることなどから、何か運命の糸にたくり寄せられたような気持ちになった行事でした。

○伊勢 ひとみ（友の会会員）

冷たい風の中を三時間あまりに亘り、モラエスと鳥居龍蔵にゆかりの地を案内していただきました。以前、新聞に掲載された黄花亜麻も見ることができ



善福寺前にて

感動しました。この度は年の瀬にもかかわらず参加者が多く、鳥居龍蔵やモラエスへの関心の高さが感じられました。もう一度、ゆっくり巡ってみたいなと思っております。

○今山 佳世子（一般）

戦前の新町橋筋の位置や天神社の鳥居を基準とした新町橋筋のことなど、要所要所で戦前の姿の詳しいご説明をしていただき、ありがとうございます。子どもの頃（戦前）、台風や大雨で停電の時に父親がローソクを立てて、「昔々・・・あったとさ。」と話を聞かせてくれましたことを思い出しながら、懐かしいひとときを過ごすことができました。

○日下 静代（友の会会員）

今回、鳥居龍蔵とモラエスにゆかりのある地を歩く機会を得ましたことに、深く感動しております。戦中・戦後をこの徳島に生活しながら、橋筋の移り変わりを興味深く見聞しました。

春夏秋冬、山を見て、川を見て、何の不思議も感じず過ごしたことへの反省と合わせて、知ったことへの感動も僅か三時間とは思えないものでした。もう一度、道々を辿りたいと思っております。

○津川 友晴（友の会会員）

石原先生の史実に基づいた根拠で、俗説を穏やかに否定する口調に感心させられました。歩くのも速く、お元気なのがとても嬉しく、三時間があっという間に過ぎました。

天神社の鳥居の幅を基準に昔の新町橋筋を考えるとことなど、思いもしなかった我が町の再発見につながる有意義な散策でした。

○東船場では、鳥居龍蔵博士の生誕の地について会長のお話を聞きながら、当時、氏が子どもだった頃の生活を偲びました。

モラエスゆかりの地では、「おヨネとコハル」、「徳島の盆踊り」など、執筆活動をしながら徳島の生活を堪能して生涯を過ごし、骨を埋めたモラエスの人柄に感動しました。

（※お名前が記されていませんでしたので、感想だけ記載させていただきました：事務局）

## 第36号

2008年2月29日発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197  
E-mail : mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム

No.36

February

2008

Tokushima  
Prefectural  
Museum

